



2次トレンチ1
北壁



同上
総堀尖状杭列(南から)



同上(西から)



2次調査区
全景(北東から)



同上
北壁(土壘盛土・土1)



同上



礎石建物址
礎石1・2(東から)



同上
礎石8(西から)



同上
礎石5(南から)



礎石建物址
礎石10(西から)



同上
礎石7・土間(西から)



同上
北壁東端(土間)

礎石建物址
埋設甕検出状況(南から)



同上
埋設甕2堆積状況



同上
土坑2(南から)





溝状遺構(石列1・2)
全景(東から)



同上
東壁土層断面



同上
石列遺物出土状況



池状遺構
全景(西から)



同上
北東隅護岸杭



同上
西岸土層断面



池状遺構
湧水施設(北から)



同上土層断面(西から)



同上底部(南から)

屋敷境ST14(南から)



同上(西から)



下層
石積井戸(南から)





下層
P3(南から)



同上
P4(西から)



同上
P5・溝(東から)



北側擁壁掘削立会い調査
土塁北側残存状況(東から)



同上
木杭(土留め杭)検出状況



南側擁壁掘削立会い調査
南東壁の地山層と攪乱状況



着手前
現場全景・遺構養生



北側擁壁
土塁の残存状況



南側擁壁基礎部確認トレンチ
地山層の上部が攪乱されている

擁壁工
南側擁壁丁張りと遺構養生用土嚢



遺構の保護
遺構全体を不織布で覆い、盛土を行う



北側擁壁の造成

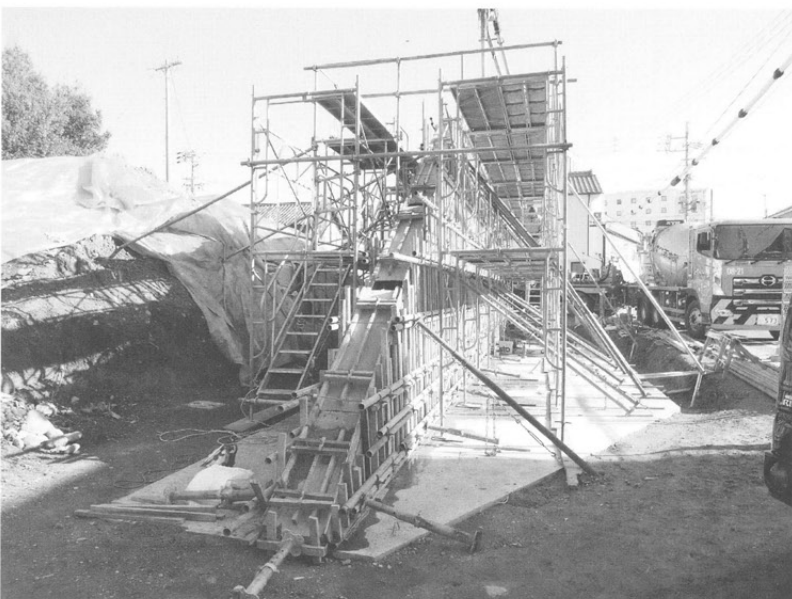




南側擁壁基礎部掘削



南側擁壁配筋
立上り部分の配筋施工



南側擁壁コンクリート
立上り部打設・型枠状況



北側擁壁完了(東から)



南側擁壁コンクリート打設完了



土墨東法面丁張り設置
重機にて法面の成形を行う



土塁成形完了及び階段丁張り
遺構への影響を考慮し、階段を当初
計画から縮小



東法面擁壁の基礎
池状遺構の挟り込み部分に設けた
擁壁基礎部分



武家屋敷跡整備施工中



階段完了



池状遺構挟り込み部の擁壁完了
地盤はカラー舗装の路床となる
碎石敷で、武家屋敷跡説明板躯体
はそこに置いた状態で据える



広場南西隅から南側擁壁
広場は石敷きが終わりベンチ基礎
や全体説明板の躯体が出来る



土塁西側
東面同様カラー舗装の路床が整えられ、
手前に尖状杭列説明板躯体が据わる



植栽
土塁上面にクサツゲを植える



広場東南隅から全体
手前がスロープの施工中
奥に植栽中の土塁が見える

公園全景
南東から



同上
南西から



同上
北西から





公園南側広場
史跡名称板



同上
全体説明板と土塁説明板



同上
土塁断面表示全景



武家屋敷跡
全景(土塁上から)



池状遺構
抉り込み部(西から)



総堀杭列
説明板と杭列断面表示

報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもととしせきまつもとじょうにしそぼりどるいあと—ほぞんせいびじぎょうにかかるはつくつちょうさき・こうじほうこくしょ—							
書名	長野県松本市史跡松本城西総堀土塁跡—保存整備事業に係る発掘調査・工事報告書—							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.205							
編著者名	小山貴広、竹原 学、原田健司、堀井亮彦、三村竜一、宮島義和、森 義直、公益財団法人 文化財建造物保存技術協会、パリオ・サーヴェイ株式会社							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-0873 松本市丸の内4番1号 TEL0263-32-2902 (記録・資料保管：松本市立考古博物館 松本市中山3738番地1 TEL0263-86-4710)							
発行年月日	2010（平成22）年3月31日（平成21年度）							
ふりがな	ふりがな	コード	遺跡番号	北緯	東経	発掘調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村						
まつもとじょうあと (しせきまつもとじょう にしそぼりどるいあと) 松本城跡 (史跡松本城・ 西総堀土塁跡)	長野県 松本市 大手2丁目 54-4外	20202	494	36度 14分 20秒	137度 58分 3秒	20080707 ～20090319	119.9m ²	記念物 保存整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
松本城跡 (史跡松本城・ 西総堀土塁跡)	城館跡	戦国 ～近代	総堀土塁 1基	総堀尖状杭列 1基	土器・陶磁器、土製品、瓦、 石器、木製品、金属製品			
			礎石建物址 1基	埋設甕 2基				
			池状遺構 1基	溝状遺構 1基				
			屋敷境遺構 1基					
要約	総堀土塁は松本城の郭内と郭外を分ける、重要な防御施設であった。調査地点では西側総堀で唯一残る土塁と、総堀尖状杭列が検出された。土塁東側（三の丸側）では、礎石建物址や池状遺構、溝状遺構など武家屋敷に伴う遺構も検出された。これは、絵図との整合関係から、「木村武兵衛」屋敷と判断された。 これらの成果をふまえ、史跡を恒久的に残すため「史跡松本城西総堀土塁公園」として復元整備を実施した。							

松本市文化財調査報告 No.205

長野県松本市

史跡松本城 西総堀土塁跡

— 保存整備事業に係る発掘調査・工事報告書 —

発行日 平成22年3月31日

発行者 松本市教育委員会

〒390-0874

長野県松本市丸の内4番1号

印刷 精美堂印刷株式会社

